

# 平成 29 年度ユネスコスクール年次報告書

## 1. 学校概要

学校名 岐阜県高山市立久々野小学校

(※正式名称を記載)

種 別  保育園・幼稚園  小学校  小中一貫<sup>※注1</sup>

中学校  中高一貫<sup>※注2</sup>  高等学校

教員養成大学  専修学校、各種学校

特別支援学校

その他（例：小中高一貫）

※注1 義務教育学校を含む ※注2 中等教育学校を含む

所在地 〒 509-3205

岐阜県高山市久々野町久々野1772番地

E-mail kugunoshou@edu.city.takayama.gifu.jp

Website www.city.takayama.lg.jp

幼児児童生徒数 男子 90名 女子 96名 合計 186名

幼児・児童・生徒の年齢 6歳～12歳

## 2. 報告期間

平成29年4月～平成30年3月

※報告書提出時点～平成30年3月末までの活動は、予定（見込み）として記載ください。

## 3. 活動内容

※記入にあたっては、末尾の留意事項も確認ください。

(1) 活動の概要（800字程度＋活動内容を表す写真数枚）

※チェック事項1-1、2-1に対応

本校は、「地域で学び、地域のよさを受け継ごう」を活動テーマとして、ESDを「人、社会、自然環境」との関係性から、「関わり」や「つながり」を大事にする児童の育成と捉え、ESDの実践を通して地域のよさを見つけ、地域の一員としてふるさとで生きる自分を見つめ、自分の生き方を考える力の育成を目標とした。

具体的には、自然、文化、人とのふれあいを柱に、①地域の方とふれあう活動、②福祉に係わる学習、③自然を生かした果樹栽培に係わる学習、④郷土の文化・歴史に係わる学習を行った。

### ① 地域の方々とふれあう活動

3年生は地域のお年寄りとの交流をした。歌を披露したり、手遊びやゲームを考えたりして、交流を行った。どのようにしたらお年寄りの皆さんに楽しんでもらえるかと考えて準備を進める過程で、人のために何かをするという相手・目的意識を持つことができた。また、大豆を豆から育てて豆腐作りをする活動では、収穫時に一粒の豆も落とさず大事にすることや、手作りの豆腐の味を知ることで「食」を大事に考えるという意識が芽生えた。

## ② 福祉に係わる学習

地域内にある福祉協議会に協力をしていただき「福祉とは何か」「車いす体験」「手話を学ぶ」などの講話や体験学習を行った。障がいを知るだけでなく、障がいを持つ方々の思いや願いを知ることで「自分達にできることは何か」を考えた。「共に生きる」という視点で考えていくことで、互いの生活や思いを大事にするためには何をするとよいか、自分なりの考えを持つことができた。

## ③ 自然を生かした果樹栽培に係わる学習

地域の名産品である「りんご」の栽培活動を行った。「摘花」「摘果」「収穫」などの体験活動を通して、「りんご」が久々野の特産品になっている理由や栽培にかける農家の方々の思いや工夫を学んだ。寒暖の差をいかした農業は、りんご以外の農産物の品質のよさにつながっている。収穫後はりんごを使った加工品づくりに挑戦し、学びの成果を参観日に保護者にむけて発表した。また、学びをまとめた掲示物を農園や公民館などに掲示をして、学びの発信をした。

## ④ 郷土の歴史・文化に係わる学習

古代、平城京とつながっていた「位山官道」を実際に歩き、修学旅行で訪れた京都・奈良へ当時は歩いて行った人々に思いを馳せた。高山が「小京都」と呼ばれる所以もあり、「道」とともにつながりを感じる学習となった。

また、市の文化財の「東家土蔵」が安永騒動における義民長次郎の働きとつながっていることを学習し、長次郎の思いや生き方を知ることによって、自分を振り返り、生き方を考える。



① の写真 (キャプション)



② の写真 (キャプション)



③ の写真 (キャプション)



④ の写真 (キャプション)

## (2) 活動の詳細

### ① 活動内容

※チェック事項 1-2, 2-1 に対応

#### ア. 活動分野（複数選択可）

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 環境	<input type="checkbox"/> 2. エネルギー	<input type="checkbox"/> 3. 防災	<input type="checkbox"/> 4. 生物多様性
<input type="checkbox"/> 5. 気候変動	<input type="checkbox"/> 6. 国際理解、文化多様性	<input checked="" type="checkbox"/> 7. 地域の伝統文化、文化遺産	<input type="checkbox"/> 8. 人権・平和
<input checked="" type="checkbox"/> 9. 健康・福祉	<input checked="" type="checkbox"/> 10. 食育	<input type="checkbox"/> 11. 持続可能な生産と消費	<input type="checkbox"/> 12. 貧困
<input type="checkbox"/> 13. エコパーク	<input type="checkbox"/> 14. ジオパーク	<input type="checkbox"/> 15. グローバルシチズンシップ教育 (GCED)	
<input type="checkbox"/> 16. ジェンダー平等	<input type="checkbox"/> 17. その他( )		

#### イ. 活動を通して育みたい資質や能力（複数選択可）

<input type="checkbox"/> 1. 批判的に考える力	<input type="checkbox"/> 2. 未来像を予測して計画を立てる力
<input checked="" type="checkbox"/> 3. 多面的、総合的に考える力	<input checked="" type="checkbox"/> 4. コミュニケーションを行う力
<input checked="" type="checkbox"/> 5. 他者と協力する態度	<input checked="" type="checkbox"/> 6. つながりを尊重する態度
<input checked="" type="checkbox"/> 7. 進んで参加する態度	
<input type="checkbox"/> 8. その他(自由記入 )	

#### ウ. 活動時間（複数選択可）

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 教科の時間	<input checked="" type="checkbox"/> 2. 総合的な学習の時間
<input type="checkbox"/> 3. 特別活動等	<input type="checkbox"/> 4. クラブ活動
<input type="checkbox"/> 5. その他(自由記述 )	

#### エ. 使用した教材（書籍、ウェブサイト、パンフレットなど具体名）

- |   |
|---|
| <ul style="list-style-type: none"><li>・ 久々野町史（書籍）</li><li>・ 郷土の久々野（書籍）</li><li>・ 飛驒の歴史（書籍）</li><li>・ りんごの種類や育て方（ウェブサイト）</li><li>・ 大豆の秘密（ウェブサイト）</li></ul> |
|---|

- ② ユネスコスクールとしての活動を各校の教育課程（指導計画）にどのように位置付けているか。指導内容を適切に定め、指導方法の工夫改善に努めているか。（200～300字程度）

※チェック事項 1-2, 1-3 に対応

3年生以上は総合的な学習の時間や教科の学習内容として位置付けている。1, 2年生については、生活科や教科と関連する学習内容もある。

今から将来にわたり、自分の進路や生き方を考えるための身近な題材として、自分が住んでいる「地域」に目を向けさせることにより、よさに気付く力を高め、進んで地域に発信していく力をつけていく。

調べ学習、見学、体験等を行ったのち、自分の学びを他者に発信することで思考を深め、学んだことを身に付けさせていくように指導方法の工夫改善に努めている。

- ③ 学校全体で組織的かつ継続的に活動に取り組める体制や環境をつくるため、どのような取組を行っているか。（200字程度）

※チェック事項 1-4 に対応

歴史保存会や伝統文化継承で表彰された方々にご協力をいただき、毎年講師を依頼している。地域在住のそういった会や方々との継続的なつながりをもつために、それぞれの学年での学習内容や講師依頼についての引き継ぎを行っている。

- ④ ユネスコスクールとしての活動の質の向上のための学校活動の評価（内部/外部）の方法・具体的内容と、それによって明らかになった成果と課題。（200字程度）

※チェック事項 1-5 に対応

学校活動の評価は、児童が活動によって得た学びが、学習前と比較してどのくらい深まったかを担任が把握し、活動の目的や内容についての検討をした。外部評価は学校関係者評価委員会や地域のそれぞれの立場で児童を見守ってくださる方々に活動内容を示し、日頃の児童の姿と願う児童の姿を交流しながら、助言をいただいた。

地域のことを児童全員が学習することでふるさとを大切にしたいという気持ちが高まった。課題は活動時間数の検討である。

- ⑤ ESD の推進拠点としての活動成果の発信方法・内容と、発信により得られた効果。(200字程度) ※チェック事項 2-2 に対応

児童の活動の様子と学びの成果(児童が新たに知識を得ることで感じた喜びやの考えの変容)を学校通信として家庭や地域に配布した。学校評価で、保護者から自分の子ども以外の学年の学習の様子がよくわかったという声が届いた。また、授業参観日の授業で、児童が学んだことを様々な発表方法で、保護者に伝えた。保護者からは学習したことと、児童の考えが詳しくわかってよかった、発表の仕方が上手くて分かりやすかったという感想が寄せられた。「地域を学ぶ学習」は保護者の学校アンケートでも評価が高い。

- ⑥ 学校以外の団体との協働・交流・ネットワーク形成(地域コミュニティ、大学、ESD活動支援センター、ESDコンソーシアムとの連携など)  
(200字程度) ※チェック事項 2-3 に対応

現在は、学習時に地域の方々に講師をお願いしたり、団体(全農・まちづくり協議会・長寿会・農政課・支所・福祉協議会等)に協力をいただいたりし、関わりやつながりの中で学習を深めている段階である。

- ⑦ 国内外のユネスコスクールとの交流・ネットワーク形成(200字程度) ※チェック事項 2-4 に対応

現在、他のユネスコスクールとの交流実績はないが、県小学校校長会の研修グループ(自立と共生)にて、各校におけるESDの実践を交流したり、教頭が市の出張研修にて、ESDの実践を交流したりした。

- ⑧ ユネスコスクールの活動による効果について、特筆すべき（特に強調したい）内容（例えば児童生徒、教員、カリキュラム・教授法、学校経営、地域・保護者との関係など様々な面でのポジティブな変化）（200字程度）  
※チェック事項 2-5 に対応

地域の方々を講師として、「産業、文化、歴史」について話していただくことで、「自分の住んでいる久々野にこんな産業や文化、歴史があったのか」という「知る喜びや驚き」を得た。

また、それぞれの講師の方から、よい物を作るための努力や工夫、伝統を受け継ぐことの意味を聞くことによって、大切に長く残されている物、日々進歩している物の背景には、そのことを大事にしていきたいという「人の思いやつながり」があることが児童の心に残ったことが大きな成果であった。

- (3) 平成 30 年度の活動計画（200～400字程度）

1 年生：【郷土の自然に親しむ】

学校の周辺や、地域の公園などに出かけ、久々野地域の自然に親しむことができる。

2 年生：【郷土の様子を知る】

学校周辺の公共施設や商店を訪れ、地域の方々とふれあうことができる。

3 年生：【郷土の方々とふれあう】

大豆づくりを通して、地域の方々とふれあい学ぶことができる。地域のお年寄りが憩う施設を訪問し、進んでふれあうことができる。

4 年生：【郷土の福祉を知る】

郷土の福祉施設を訪れたり、福祉施設で働く方々の話を聞いたりして、郷土の福祉について理解することができる。

5 年生：【郷土の産業を知る】

地域のりんごの果樹園で、栽培体験活動を行うことを通して、地域の産業について考えることができる。

6 年生：【郷土の歴史とよさを知る】

地域の歴史について、積極的に話を聞いたり、調べたりすることができる。久々野の各地域の特徴を調べ、地域ごとのよさを理解することができる。